

ボランティアセンターだより

鴻巣市社会福祉協議会ボランティアセンター

TEL597-2100

第249号

社協HPは

鴻巣市箕田4211-1 鴻巣市総合福祉センター内

FAX597-2102

令和4年 2月発行

こちら



いつでも・どこでも・誰でも

そして楽しく

知ってもらおう よろこび そして新しい仲間との 出会い

新型コロナウイルス感染症の第5波が落ち着きを見せた10月から12月。これまで感染予防のため活動を見合わせていたボランティア団体や地域のサロンの多くは、この機会に、仲間や地域の方と久しぶりに顔を合わせて集まることができ、しばらく見合わせていた学習会や行事なども開催されるなどの様子が見受けられました。

また、小・中学校でもこの時期に福祉教育の依頼が多くあり、講師を引き受けていただいたボランティア団体は、各学校で生徒たちに来て指導することができ、学習を通じてたくさんの交流がありました。

社会福祉協議会の事業も、昨年はコロナで開催中止としていた「いきがい作品展&ボランティア見本市」を、感染予防のため展示方式に変え、11月29日から12月10日に開催することができました。例年おこなっていた、ボランティア団体による体験や対面相談は中止し、活動紹介のパネル展示をしました。

ボランティア団体の方からは、「自分たちの活動を知ってもらおう機会になった」「他の団体の活動も知ることができ良かった」などお話をいただきました。

また、ご来場いただいた方からの活動見学のご相談もあり、新たな活動へと広がる機会となりました。

まだコロナとの生活は続きそうですが、今後もボランティア団体の活動をサポートしてまいります。



ボランティア団体ごとに作成した紹介パネルを展示しました
写真や資料で、活動の様子がよくわかりました



23団体のご参加と
111名の方にご来場
いただきました

ボッチャ講座

おとな大学ボランティア学科を修了された卒業生のフォローアップ講座として、全2日の内容で実施しました。1日目におこなったのは、障がい者スポーツ大会で注目された「ボッチャ」の講座です。埼玉県ボッチャ協会・さいたま市岩槻ボッチャクラブより小池静男講師をお招きし、ボッチャについて学び、実際に体験をしました。2日目には、鴻巣市生活支援体制整備事業とボランティア活動について学習しました。

特に1日目・ボッチャのミニ試合では、学んだルールや楽しさを実践に活かし、各々の戦略で試合が盛り上がりました。

年齢や障がいがある・なし関係なく、誰でも楽しめるスポーツとして、今後「ボッチャ」を普及する活動が、新たなボランティア活動となるよう考えています。



ルールについて学びました



どんな投げ方でもOK！
白い球（ジャックボール）に近づけるには、力加減や投げ方も戦略の1つ。



バルーンアート 夢ふうせん イベント会場を風船でデコレーション！

「いきがい作品&ボランティア見本市 in こうのす」の会場をバルーンでデコレーションしたのは、ボランティア団体“バルーンアート夢ふうせん”のみなさんです。

新型コロナウイルス感染症が拡がったことで、しばらく活動を制限していた夢ふうせんですが、久しぶりに会員が集ってのバルーン制作とのことでした。「この色はどう？」「こうやって作ってみようか！」と次々とアイデアが湧いて出て、あっという間にとても可愛いバルーンで会場が明るく飾られました。

現在は、再びコロナが拡がりを見せているため、施設等へ出向いての活動は休止されています。コロナが落ち着く頃、色とりどりの風船のように、たくさんの笑顔が地域にあふれますように。

